

各 位

東京都千代田区内神田二丁目12番5号  
株式会社ビーマップ  
代表取締役社長 杉野 文則  
(東証JASDAQ: 4316)

問合せ先: 取締役経営管理部長 大谷 英也  
(電話 03-5297-2181)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

業績の動向を踏まえ、2021年5月13日に発表いたしました2022年3月期通期の連結業績予想を下記のとおり修正いたしますので、その概要をお知らせいたします。

記

#### 1. 連結業績予想数値の修正

2022年3月期通期連結業績予想修正 (2021年4月1日～2022年3月31日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	1,350	50	60	40	12円40銭
今回修正予想 (B)	1,040	▲160	▲160	▲170	▲52円68銭
増減額 (B - A)	310	▲210	▲220	▲210	—
増減率 (%)	▲23.0%	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2021年3月期)	1,344	46	59	41	12円85銭

#### 2. 修正の理由

売上高につきましては、モビリティ・イノベーション事業分野・ワイヤレス・イノベーション事業分野ともに対前期比・対計画比とも大幅に下回る見込みとなりました。

これに伴い、稼働低下に伴う労務費増により販売費および一般管理費が増加する見通しであることも踏まえ、営業利益は大幅に減少し赤字となる見通しであります。

経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益につきましても、営業利益の下方修正にともない減少する見通しです。

事業分野別の状況及び見通しにつきましては、以下のとおりであります。

##### (1) モビリティ・イノベーション事業分野

当事業分野においては、昨年6月をもって株式会社ジェイアール東日本企画向けの時刻表や経路探索技術の提供を終了し、交通系ICカードに関わる交通費精算クラウドサービス「transit manager」や私鉄向けアプリ、システム開発・運用等を当事業分野における柱に成長させるべく注力しております。しかしながら、新型コロナウイルスによる鉄道利用者減少の影響を受けるなどにより事業展開は来期となる見込みであり、第4四半期においても小規模案件の積み上げに留まり、減少幅を回復するには至らない見通しです。当期売上高は約110百万円(前期225百万円)となる見通しです。

##### (2) ワイヤレス・イノベーション事業分野

当事業分野においては、当社では、様々な無線デバイスを用いた IoT やローカル 5G などの分野にも取り組むことで、前期並みの収益を目指す予定でしたが、従来下半期とりわけ第4四半期に集中していた大型案件の受注が予定通りに伸びておりません。この状況を改善するため、ミリ波を活用した無線システムや賃貸住宅向け Wi-Fi 提供を準備しておりますが、当期業績への貢献については軽微となる見通しです。当期売上高は約 640 百万円（前期 812 百万円）となる見通しです。

### (3) ソリューション事業分野

ソリューション事業分野につきましては、近年注力している O2O2O・MMS サービスの主要顧客・業務提携先である流通業界の投資動向が徐々に回復しつつあり、また、ハードウェア販売、こんぷりんの新商品（証明写真）や企業向け受託開発案件も積み上げできていることから、売上高は前期並みとなる見通しです。当期売上高は約 290 百万円（前期 305 百万円）となる見通しです。

(注) セグメント別（事業分野別）の損益見通しにつきましては、現時点では算定が困難であるため記載を省略しております。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいております。今後、変更すべき事象が生じた場合は速やかに発表させていただきます。

以 上